

令和6年度地域活性化人材育成事業(SPARC)外部評価委員会次第

1.目的

外部評価委員会は、地域活性化人材育成事業の自己点検・評価の客観性、妥当性及び透明性を高めるため、当該自己点検・評価に対する検証及び評価並びに助言を行う。

2.日時

令和7年9月22日(月) 14時00分～16時00分

3.場所

山口大学事務局1号館4階特別大会議室

4.議題

14時00分～14時05分：事業責任大学学長挨拶

14時05分～14時55分：令和6年度事業実施状況の説明

- ・全体的な取り組み状況
- ・大学によるDXのリカレント教育
- ・課題解決型学習(PBL)を通した大学と地域との連携
- ・高大接続に関する取組

14時55分～15時05分：休憩

15時05分～16時00分：質疑応答・意見交換

【主なテーマ】事業の継続性とこれから本格的に展開するリカレント教育、
課題解決型学習及び高大接続について他

地域活性化人材育成事業 外部評価委員会配付資料一覧

01 当日配付資料

- 01-1 令和 6 年度地域活性化人材育成事業(SPARC)外部評価委員会次第
- 01-2 地域活性化人材育成事業 外部評価委員会配付資料一覧
- 01-3 地域活性化人材育成事業 外部評価委員会委員名簿
- 01-4 地域活性化人材育成事業 外部評価委員会 大学側出席者名簿
- 01-5 地域活性化人材育成事業 外部評価委員会 座席図

02 当日説明資料

- 02-1 令和 6 年度自己点検・評価書ダイジェスト版及び別添資料
- 02-2 地域活性化人材育成事業におけるリカレント教育
- 02-3 大学と地域との連携による課題解決型学習(PBL)連携
- 02-4 3 大学による高大接続の推進

03 事前配布資料

- 03-1 令和 6 年度地域活性化人材育成事業(SPARC)外部評価の実施について
- 03-2 令和 6 年度自己点検・評価書
- 03-3 参考資料
 - ・やまぐち SPARC 教育推進基本計画
 - ・「地域活性化人材育成事業(SPARC)」評価実施要綱
 - ・地域活性化人材育成事業自己点検・評価委員会規則
 - ・地域活性化人材育成事業外部評価委員会規則
- 03-4 令和 6 年度地域活性化人材育成事業(SPARC)外部評価シート
- 03-5 外部評価委員会 外部評価シート集計表(令和 5 年度版)
- 03-6 用語解説

令和 6 年度地域活性化人材育成事業(SPARC)外部評価委員会の概要

令和 4 年度に本事業に採択されてから、第 2 回目となる「地域活性化人材育成事業外部評価委員会」を、令和 7 年 9 月 22 日(月)に山口大学の特別大会議室で開催しました。外部評価委員会には、山口県内の経済団体及び行政機関、高等教育機関の関係者 8 名が出席し、山口大学、山口県立大学及び山口学芸大学からは、各大学長と 3 大学で構成する「自己点検・評価委員会」の構成員等、計 12 名が参加しました。

本事業の着実な実施のために、3 大学では、「やまぐち SPARC 教育推進基本計画」を策定し、各年度に実施する事項を明確化して、事業を推進しており、同基本計画の達成状況について、令和 5 年度事業から毎年度「自己点検・評価」を実施して、「自己点検・評価書」を作成し、これに基づき外部評価を受けています。また、本事業に対する自己点検・評価及び外部評価を実施するため、令和 5 年 10 月に「地域活性化人材育成事業 (SPARC) 評価実施要項」を策定し、併せて「自己点検・評価委員会規則」及び「外部評価委員会規則」を制定しています。

「自己点検・評価委員会」は、各大学において、本事業を推進するための中心的な役割を担う副学長を構成員とし、評価結果を改善に繋げることができる体制としています。評価項目は、「I 連携教育プログラム」「II 各大学固有の教育課程の再編」「III 大学等連携推進法人」「IV 地域連携プラットフォーム」「V 広報活動・情報公開」「VI 全体」とし、本事業全体を点検・評価としました。また、補助事業期間が 3 年間を切ったことから、「事業の継続性」について検証を行いました。

外部評価委員会は、事業責任大学の山口大学 谷澤幸生学長の挨拶から始まり、3 大学から、令和 6 年度の事業実施状況について、「全体的な取り組み状況」「大学による DX のリカレント教育」「課題解決型学習 (PBL) を通した大学と地域との連携」「高大接続に関する取組」の説明を行った後に、「事業の継続性とこれから本格的に展開するリカレント教育、課題解決型学習及び高大接続」を主なテーマとして、外部評価委員と 3 大学関係者による質疑応答及び意見交換を行いました。

事業の継続性については、「3 大学間の熱意に温度差が生じないよう連携を維持することが重要」、事業後半の課題として、「事業が折り返し地点を迎えるにあたり、今後は各テーマの本質をさらに深く追求し、山口地域ならではの具体的なニーズに応じた事業へと昇華させていく段階」他、大所高所の観点から、様々な意見をいただきました。今後、外部評価委員会委員の皆様からいただいた貴重な意見等を踏まえ、また、期待に応えることができるよう、3 大学で協働して本事業の改善等に取り組んで参ります。